誠実に正道を歩む

1832年、
京都で染料卸売問屋として創業。
現在、国内外100社を数える
グループ会社と各拠点を軸に、
開発・製造から販売までを
一貫して手がけています。
時代が求めるソリューションを生み出し、
化学の力で暮らしを豊かにするナガセ。
お客様のニーズに高いレベルで
お応えし続けます。

知恵をビジネスにする技術・情報企業
NAGASE
http://www.nagase.co.jp

長瀬産業株式会社
東京本社 〒103-8355 東京都中央区日本橋小舟町5-1 TEL.03-3665-3021(代)
大阪本社 〒550-8668 大阪市西区新町1-1-17 TEL.06-6535-2114(代)
名古屋支店 〒460-8560 名古屋市中区丸の内3-14-18 TEL.052-963-5615(代)

ナケレバ、ツクレバ。

夢がなければ→つくればいい。希望がなければ→つくればいい。元気がなければ→つくればいい。
コドモの頃を思い出そう。無敵のヒーローだって、タイムマシンだって、自分のアタマで、素敵につくりだしてたよね。
今ないものを思い描く「発想力」が、クレハの強み。それをカタチにする「技術力」が、クレハの誇り。ナケレバ、
ツクレバ。どこにもない今日を、想像もつかない明日を、どんどんつくれば→未来がもっと好きになる(と、いいね)。

株式会社クレハ 〒103-8552 東京都中央区日本橋浜町3-3-2

農業資材向け拡大

バイオマスプラスチック

バイオマス素材を使って農業資材を積極的に展開しているのは東レとユニチカだ。バイオマス素材を農業資材に使うメリットは、生分解性であること。例えば、トウモロコシを原料としたポリ乳酸は一定の温度や湿度で加水分解する。使用した後に放置したままでもポリ乳酸を使った樹脂は、土に還元できる。そのため農業・土木資材に適した素材と言える。東レとユニチカ両社の取り組みを紹介する。

ユニチカはグランドカバープランツ用シートを販売

砂漠の緑化に活用

生分解性の特徴生かす

東レは、ポリ乳酸繊維「エコディア」を使って中国の砂漠地帯で緑化を進める実験を2012年に始めた。遼寧省や内蒙古の約6・7㌶を対象に実施する計画。15年3月をめどに成果をまとめる。07年にミツカワと共同開発したエコディアを使った砂漠緑化資材を使う。エコディアをチューブ状に加工したものに砂を詰め、それを格子状に敷設する。突風による砂の飛散を防止し、飛来した種子を根付かせる仕組みだ。エコディアは数年かけて生分解し自然に返るため、砂漠だった土地には緑だけが残る計算だ。中国全土で緑化が必要な地域は50万平方キロメートル以上ある。東レの手法が緑化を進める一助になるか期待がかかる。

ユニチカは、ポリ乳酸を使った「テラマック」を農業用資材向けに展開している。優れた均一性や柔軟性、高強度、寸法安定性を訴求した不織布を使い、グランドカバープランツ用シートを販売。つるなどの植物の育成に使う。不織布のため根が張りやすく、ポリ乳酸を使っているため土に返る性能を併せ持つ。また、テラマックを使った繊維製品は生ごみと一緒に埋めるなど堆肥として使うこともできるという。

ポリ乳酸は加水分解と微生物による分解（生分解）で、二酸化炭素（CO_2）と水に完全に分解する。地球環境にも優しい素材であることを武器に、バイオマス由来素材を農業資材に活用する動きは活発化しそうだ。

農薬 海外販売が好調

新興国で殺虫剤伸長

ブラジルなど除草剤拡販

2050年には90億人を超えると予測される世界人口。加えて、新興国や発展途上国の所得増加もあって、食肉用の家畜に供給するトウモロコシや大豆などの飼料や、果実などの需要が一層増えていく見込みだ。一方、世界全体の耕作地面積はおよそ7億ヘクタールと横ばいで推移。このように地球上の環境・資源が限られる中、食糧を安定供給するために必須の農薬の需要が伸びている。

農薬市場は10年から15年まで年平均2・2%の成長が見込まれる。そんな中、日本の農薬メーカーや農薬を手がける化学メーカーは従来以上に海外事業の拡大に力を入れている。

日本農薬は主力製品の園芸用殺虫剤「フェニックス」の海外販売が好調。13年9月期連結決算の営業利益を期初予想より18億円増の56億円とするなど、業績予想を上方修正した。15年9月期までの中期経営計画では、海外売上高比率51%を計画している。

クレハの独BASF向け農業用殺菌剤「メトコナゾール」

三井化学は田畑や果樹園向け殺虫剤「ジノテフラン」をインドや中国、ブラジルなど新興国に拡販し、また次世代農薬原体を16年度から海外に順次投入する。これらにより、20年度に農薬事業の売上高を現状比倍の1000億円（海外売上高比率5割）に引き上げる。

住友化学は15年度までに米種子大手のモンサントと連携し、米国に続いて南米で除草剤「フルミオキサジン」を拡販する。遺伝子組み換え大豆の生産が伸びている南米の需要増を取り込み、15年度にブラジルで農薬事業の売上高を12年度見込み比約25%増の100億円以上に引き上げる考え。

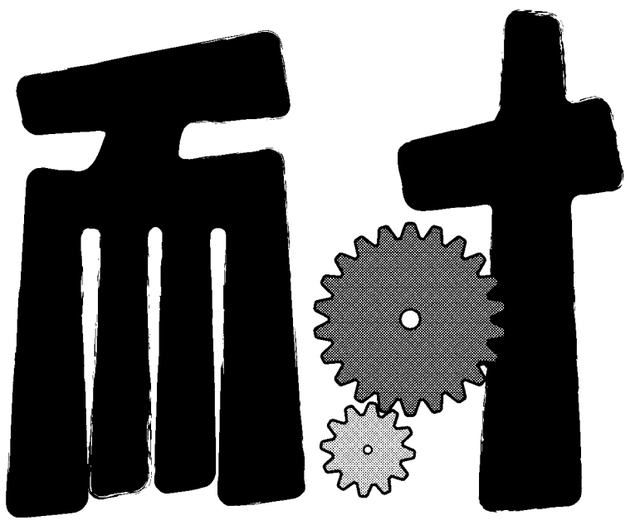
クレハも主に独BASF向けの農業用殺菌剤原体「メトコナゾール」の輸出が伸びている。太陽電池向けの断熱材などに使われる炭素繊維やリチウムイオン二次電池材料の需要が伸び悩む中で、小林豊社長は「農薬などの堅調な需要は印象深い」と話すなど、農薬市場に注目している。

生命と緑の未来のために　Innovation for Life & Nature

私たちは研究開発型企業として「農薬」という有用な農業資材を提供し続けています。
創業80余年という歴史に培われたノウハウと最先端の技術により、高品質の製品やサービスを数多く世に送り出してきました。
そして、当社グループは世界の食と農業へのさらなる貢献のため、グローバルカンパニーを目指した新たな「挑戦」を始めます。

〒104-8386 東京都中央区京橋1-19-8
TEL.03-6361-1400(代) FAX.03-6361-1450
URL http://www.nichino.co.jp/

日本農薬株式会社
NIHON NOHYAKU CO.,LTD.



ジュラコン®。耐久性に優れたスーパーな材料。

様々な環境下で酷使される生活家電や、安全性が最重要視される自動車部品は、どんな状況においてもその特性を保ち続けることが求められます。長時間、広範囲の温度下で、引張り強さ、伸び、衝撃強さなどの様々な機械的特性をバランスよく保ち続けるのが、POM樹脂ジュラコン®の特徴です。
非常に優れた耐疲労性や繰返し応力。連続振動使用にも安定した性能を保持することから、主として歯車やねじ、軸受けなどの機械要素部品を中心に活躍しています。

Polyplastics

ポリプラスチックス株式会社
〒108-8280 東京都港区港南二丁目18番1号 JR品川イーストビル TEL:03-6711-8600
www.polyplastics.com